

令和6年11月8日
国土技術政策総合研究所

国総研資料第 1295 号「港内・港外における海藻の 生育基盤の工夫の効果に関する検討」を刊行します

ブルーカーボン生態系として藻場拡大のニーズは社会的に高まっており、全国において様々な藻場の生育基盤の工夫に関する検討が実施されています。ところがそれらの検討結果は総合的に整理されていないため、ある水域で検討された結果を環境が異なる他の水域へ適用できるか判っていません。そこで著者らの一連の研究では、全国で実施された藻場の生育基盤の工夫に関する検討結果を収集し、種々の環境条件下での藻場の生育基盤の工夫の適用性を示すことを目的としています。昨年度取り纏めた国総研資料 No. 1257 では、主に国土交通省が実施した事例について整理し、海藻種や環境条件を適切に考慮して生育基盤の工夫を選択することが重要であることを示しました。しかし、海藻の着生・成長を促す生育基盤の工夫の適用範囲を示すには、データ数が不十分でした。そこで本検討では、地方自治体等が実施した検討結果を加えて、データを 395 事例に拡充しました。その結果、本検討では、環境条件として波浪条件に着目し、適用水域を港内、閉鎖性内湾に位置する港の港外（港外（閉鎖性））、外海に面した港の港外（港外（外洋））に区分して、海藻種毎の生育基盤の種々の工夫がどのような環境条件下で効果が期待できるかを示しました。

<目次>

- 第 1 章 はじめに
- 第 2 章 方法
- 第 3 章 結果
- 第 4 章 おわりに

本資料は、国総研ホームページで公開しています。

ダウンロード先 URL : <https://www.ysk.nilim.go.jp/kenkyuseika/pdf/ks1295.pdf>

（問い合わせ先）

国土技術政策総合研究所 港湾・沿岸海洋研究部 海洋環境・危機管理研究室
室長 岡田 知也 （内線：3210）
TEL：046-844-5019 E-mail：ysk.nil-46pr@gxb.mlit.go.jp